



豊東小だより

令和元年5月31日 6月号
練馬区立豊玉東小学校
校長 梅津 靖子

コミュニケーション力を高め、社会性をはぐくむ

校長 ^{うめ つ やす こ}梅津 靖子

紫陽花が色づき始めたばかりだというのに、真夏を思わせる暑さです。急に暑くなったことで、体が暑さに慣れていないため、熱中症予防には十分に気を付ける必要があります。熱中症の予防のポイントは、①暑さを避ける、②こまめに水分補給するです。特に、子どもは体温の調節能力がまだ十分に発達していないので、気を配る必要があるそうです。学校では、校庭側の出入り口と中庭への出入り口にミストシャワーを取り付けました。そして、暑さ指数(WBGT)を測るための機器を使用して状況の把握に努めています。また、休み時間は、校帽をかぶって外に出ることと喉が乾く前のこまめな水分の補給を呼びかけています。水筒を持たせていただき、水分の補給についてお声かけいただけるとありがたいです。放課後や休日の外遊びの時にも、ご配慮ください。

さて、学校では、6年生の軽井沢移動教室、5年生の岩井移動教室と大きな行事が続いています。移動教室は、寝食・活動を共にする中で、人と人とがよりよい関わりをもつためにはどのように行動すべきなのかを学ぶ大きなチャンスです。決められた行程を皆で動くわけですから、思うようにいかないことや我慢しなければならないことが様々出てきます。学年全体の課題もはっきりと見えてきます。自分のことだけでなく、どれだけ相手意識をもって行動できるようになるかが大きなポイントになってくるわけです。まずは、「気持ち伝わる挨拶をする」こと。これは、相手意識をもつための第一歩です。次に、「時間を守って行動し、他の人に迷惑をかけないように気を付ける」こと。そして、「皆が気持ちよく活動できるように、自分ができることを見つけて率先して行動する」こと。これができるようになれば、どのような社会の中でも、互いに気持ちよく生活できるようになると思います。この4日間で、6年生が大きく成長した点は、自分のことだけでなく、他の

人のことを考えて行動しようと努力できるようになっているということです。毎晩の室長会議では、時間を守って集まることや集まったときや次の行動に移る時にはおしゃべりをしないことがどのようにすれば実現できるのかが熱心に話し合われました。自分たちだけが話し合うのでは変わらない、このことをどのように皆に伝えていけば皆の行動を変えることができるのか、その話し合いは、日々白熱したものになっていきました。



室長会議

閉校式が終わった後に、ベルデ軽井沢の看護師さんが私を呼び止め、どうしても伝えなかったことがあるとお話しされました。「校長先生、挨拶がいかに大切かよく分かりました。挨拶がきちんとできると心に余裕がもてるんですね。忘れ物でもしたのでしょいか。

食堂から慌てて出てくる子どもたちに出会った時のことです。食堂で履いていた上履きを脱いで廊下に出たときに、グループの中の二人が上履きをさっと揃えているのです。それも自分のだけではなく友達の間もです。この様子を私は2回見ました。これまで数多くの学校の子どもたちに出会ってきましたが、友達の間まで上履きを揃えられる子どもたちに出会ったのは初めてです。とても感動しました。挨拶ができる子どもたちは行動まで変わってくるのですね。本当に素晴らしいです。」子どもたち一人一人が、それぞれに課題意識をもって行動したことを、きちんと見てくださっていたのです。この4日間で学んだことはそれぞれかと思えます。しかし、相手意識をもって行動しようとする力は、確実に付いています。ここで付けた力は、日常の生活の中でさらに高めていってくれることでしょうか。次は5年生。初めての宿泊学習です。まずは挨拶。そして自分のすべきことをきちんとすることから。どのように成長できるのか楽しみです。

整理整頓された部屋

